

# 自己の生き方を考える道徳資料集

代表 和井内良樹（附属大泉小学校）

- 開発教材の形式： 冊子
- 対象学校種： 小・中・特別支援
- 実施可能教科等： 道徳の時間・おはなしの時間等
- 関連する道徳の内容項目：

基本的生活習慣、勤勉努力・希望、誠実・明朗  
個性の伸長、礼儀、思いやり・親切、信頼・友情、  
尊敬・感謝、生命尊重、自然愛、畏敬の念、  
規則・権利義務、公德心、勤労、家族愛、愛校心、愛国心等



## 教材内容の紹介

『自己の生き方を考える道徳資料集』は、道徳教育用に作成された21の資料と、それらの指導展開例を集録した資料集です。

小学校「第1学年及び第2学年」向けには8作品（①あやちゃんにとにゃんぷる、②おはようがいえないよ、③こおりのせかい、④ごんと大きな空、⑤うちゅうせんナミごう、⑥よっちゃんあのね、⑦わたしにまかせて、⑧きつつきのしごと）、「第3学年及び第4学年」向けに5作品（①リレーの選手になれなかったけれど、②番ぺいハロビッツ、③植物と共に一牧野富太郎、④赤おにと青おに、⑤むかしむかし、大昔の子どもたち）、「第5学年及び第6学年」には7作品（①寛平、ラン、②心の中の歌声、③413球の戦い～上野由岐子、④最後の宮大工、⑤1%の可能性を信じて、⑥願いのバトン、⑦希望のマラソン）が収録されています。その他にも、中学校向けに1作品（花火大会の翌朝に（多摩市））が集録されるほか、特別支援学校・小学部で実施された「おはなしであそぼう」（題材「あいさつは魔法のことば」）の学習指導案も含まれています。また巻末にはそれぞれの資料についての「1）ねらい、2）資料の特質、3）展開例、4）指導上の留意点及び工夫」が個別に掲載されています。

## 開発のポイント

本ワーキンググループでは、自己の生き方を考える道徳資料の開発を念頭に取り組んできました。ここでの「生き方」とは、個人の人生設計、ライフスタイルとしての「生き方」ではなく、かかわりあつてともに育つという意味合いが強いととらえました。自己中心グッズに囲まれて育つ今の子ども達の現状からも、個に埋没してしまう学力論では道徳の目標を達成することはできないと考えます。ともに育ちともに生きる「生き方」を前提に自己の生き方やあり方をとらえながら、ともによりよく生きようとする子ども達の育成を目指し、授業実践を土台とした道徳資料開発を行ってきました。

資料の開発にあたっては、以下のポイントに留意しました。

- 各学年の発達段階に応じ、子どもにとって分かりやすく興味や親近感のもてる資料
- 人間としての迷い・弱さ・葛藤など、子どもが共感し多面的に考えることのできる資料
- 子どもが切実感を感じ、引き込まれ、子どもの本心に迫れる資料
- スポーツ選手や歴史上の人物などの在り方を通して自分の生き方を見つめることのできる資料
- 規範意識、情報モラルなどの現代の課題に迫るとともに子どもの意識にねざした資料

## 自己の生き方を考える道徳資料集

和井内良樹（代表 小金井小） 前田 良子（小金井小） 野村 宏行（大泉小）  
幸阪 創平（世田谷小） 川井 優子（特別支援学校） 齋藤 大地（特別支援学校）  
永田 繁雄（大学） 松尾 直博（大学）

### 1. ワーキングの概要

学習指導要領の内容の視点に沿って児童・生徒の道徳性をはぐくむため、主に小学校・中学校における道徳の時間の指導（特別支援学校においては道徳の時間などの指導）で中心的に活用できる読み物及び映像などによる新しい資料を開発する。その際に、児童・生徒の意識の実態に根ざして学年段階に応じ自己の生き方やあり方を考えさせるような資料の開発を念頭におくこととする。また、学校現場における資料集の活用を促すため、実践事例を紹介する。

### 2. 3年間の研究成果

(1) 研究の経緯 学習指導要領の道徳第1目標には、「道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、（中略）道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。（下線和井内）」とあり、これまで中学校段階で扱う「自己の生き方についての考え」が追加された。道徳がルールへの遵守やマナーの向上といった公衆道徳にとどまらず、小学校段階から自分のあり方、生き方について考えさせ、社会人としての個の確立を明確に打ち出したものといえる。特に、小学校中学年の1の視点「個性の伸長」は内容が新たに加えられ、自分の特徴、すなわち長所や短所、課題、他とは際立った点などさまざまな面から、自分のよいところを見つけて伸ばしたり、改善に努力しようとしたりする意欲や態度を育み、子どもが自分らしい生活や生き方について考えるようにすることが求められている。このことは「道徳の時間の特質である道徳的価値の自覚を一層促し、そのことを基盤としながら、児童が自己の生き方に結び付けて考えてほしいとの趣旨」（解説道徳編8頁）からも、「個性の伸長」は今後、重要な内容の一つであるといえる。

本WGでは、自己の生き方を考える道徳資料の開発を念頭に取り組んできた。ここでの「生き方」とは、個人の人生設計、ライフスタイルとしての「生き方」ではなく、かかわりあってともに育つという意味合いが強いと捉えた。自己中心グッズに囲まれて育つ今の子ども達の現状からも、個に埋没してしまう学力論では道徳の目標を達成することはできない。ともに育ちともに生きる「生き方」を前提に自己の生き方やあり方をとらえながら、ともによりよく生きようとする子ども達の育成を目指して授業実践を土台とした道徳資料開発を行った。

(2) 資料開発のポイント 資料の開発に当たり、以下のポイントに留意した。

- 各学年の発達段階に応じ、子どもにとって分かりやすく興味や親近感の持てる資料
- 人間としての迷い・弱さ・葛藤など、子どもが共感し多面的に考えることのできる資料
- 子どもが切実感を感じ引き込まれ、子どもの本音に迫れる資料
- スポーツ選手や歴史上の人物などの在り方を通して自分の生き方を見つめることができる資料
- 規範意識、情報モラルなどの現代の課題に迫るとともに子どもの意識に根ざした資料

(3) 研究成果 児童・生徒に自己の生き方を考えさせる視点からこれまでの自作資料を見直して修正を加えたり、学習指導要領に示された新内容（小学校低学年4-(2) 勤労、中学年1-(5) 個性伸長）

に対応する新資料を自作するなど開発を行った。開発した資料名（指導内容）については以下の通り。

小学校低学年	「あやちゃんと にゃんぶる 1-(1)」「さよならが いえないよ 2-(1)」「みんなの木 2-(4)」「アスくんの たん生日 3-(1)」「こおりの せかい 3-(1)」「あぶないよ 3-(2)」「ごんたと 大きな空 3-(3)」「うちゅうせんナミごう 4-(1)※」「わたしに まかせて 4-(2)」「きつつきの しごと 4-(2)」「はるちゃんの がっこうたんけん 4-(4)」
中学年	「三足のわらじ 1-(4)」「リレーの選手になれなかったけれど 1-(5)」「番ぺいハロピッツ 1-(5)※」「植物とともに―牧野富太郎― 1-(5)※」「赤おにと青おに 2-(3)」「むかしむかし、大昔の子どもたち 2-(3)」「子リスと母ネコ 3-(1)」
高学年	「1%の可能性を信じて 1-(2)」「心の中の歌声 1-(2)」「寛平、ラン！ 1-(2)※」「まじめはみじめ 1-(4)」「炎のタックルマン 1-(6)」「413 球の戦い～上野由岐子～ 1-(6)」「3枚の銀貨 2-(2)※」「ナイスキーパー 2-(3)」「願いのバトン 2-(3)」「希望のマラソン 3-(1)」「お母さんの瞳 4-(5)」「町をよみがえらせた『台風むすめ』セーラ・マリ・カミングス 4-(7)」「法隆寺～西岡常一 4-(7)」
中学校	「花火大会の翌朝に 4-(2)」

本年度、自作資料※については授業実践を行い、児童の意識に根ざした道徳指導方法の開発とともに、道徳資料として視点「自己の生き方を考える」に迫れたか検証を行った。その結果、資料の表記及び提示の工夫を重ねることによって視点に迫ることができることを確認することができた。また、中学校及び特別支援学校小学部における授業実践を通して、児童・生徒の多様な実態に即した資料開発の重要性について共通理解することができた。そして、これらの資料を冊子「自己の生き方を考える道徳資料集」にまとめ、附属学校を中心に配布した。

#### (4)資料の内容（ねらい、あらすじ 自作資料から2部）

「こおりの せかい 3-(1)」対象：1学年 ねらい：生きる幸せや喜びを感じ、自他の生命を大切にしようとする心情をはぐくむ。【生命尊重】 あらすじ：コウテイペンギンの両親は何ヶ月も飲まず食わずの状態でも極寒の地で卵を守り続ける。子どもを産み育てるコウテイペンギンの両親と精一杯生きる子どもペンギンの姿を、それぞれ自分の親、自分に照らし合わせて生きる喜びや幸せを感じ取らせるようにする。

「赤おにと青おに 2-(3)」対象4学年 ねらい：友達と互いに理解し合い信頼を深め、友達を大切にしようとする心情を育てる。【信頼友情】 あらすじ：村で人間と仲良く暮らす赤おにだったが、自分のために消息を絶った青おにのことが気になっていた。赤おには青おにを探す旅に出る。村を出て旅立つ赤おにの決心や、「本当に赤おにのためだったのか」と自問する青おにの心情に共感させながら、友達と互いに理解し合うことで真に培われる信頼関係の大切さに気づかせるようにする。

### 3. 今後への課題

特別支援学校で活用できる教材や中学校における資料開発を進めるとともに、授業実践を通して開発した道徳資料のより効果的な活用方法について検討を続ける。また、映像資料についても研究開発を行うとともに、歴史上の人物に取材した資料、あるいは規範意識、情報モラルなど現代の課題に対応した資料の開発にも取り組む必要がある。さらに、道徳授業の実践に向けて広く活用してもらうよう、本WGのメンバーが公開授業を行う道徳授業実践研究会（仮）などの企画・運営を進め、附属学校のみならず、地域学校にも呼びかけていきたい。